

科目名	宗教哲学特講	担当者	イシハマ 石浜 ヒロミチ 弘道	期間	通年	単位数	4
-----	--------	-----	--------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>人類の歴史とともに存続してきた宗教、それは私たちの心の支えや平安のために不可欠なものであった。しかし反面、宗教の超俗的側面ゆえに、ともすれば狂信や迷信、あるいは為政者の支配の道具となり暴走したことも多々あった。そこで本科目では宗教の本質的な在り方とは何かという視点をもとに、宗教の持つ力と倫理的危うさ、そして今日世界各地で起こっている宗教的な諸事件を自ら積極的に調べることで、宗教の本来の姿を自ら研究・発見し説明できるようにしたい。そしてそれをベースとして今日の宗教的諸問題を客観的に判断し社会に発信できる能力を養う。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 学習者が宗教の本質の理解を通して、世界の諸宗教とその排他性ゆえに生じる諸問題を正確に理解し、あるべき宗教の姿と多様な宗教の固有の存在価値を論理的に提示することを習得する。 【行動目標 (SBOs)】 学習者が宗教のあるべき姿を理解することで既成の宗教を客観的に評価できるようになるために、宗教本質論と同時に宗教多元論の立場に立って、世界の多くの宗教の多様な価値をできる限りその内面からみつめることで現実起こっている諸問題を説明できるようにし (知識・解釈)、さらにその解決策を指摘する (知識・問題解決)。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学習媒体等】 ・manaba folio を利用して、教員と院生との間での双方向を重視した個別指導を実施する。 ・図書館等を利用し、参考文献等を分析・解説しレポートを作成する。 【学修方略 (LS) と学修時間】 ・まず学習者は自分が興味のある一宗教を学修する (自習) 【15 時間/レポート 1 本】 ・さらに日本固有の宗教である神道そして仏教、キリスト教、イスラム教、新宗教をも視野に入れ、それらの経典や実践の研究、関連する諸事件分析にも同等の時間を割り幅広く学ぶことに心がける (自主研究) 【10 時間/レポート 1 本】 ・1 つのレポート作成にあたり、基本教材および参考文献の読み込みに 5 時間以上必要 (レポート作成) 【10 時間/レポート 1 本】 ・manaba folio への提出・再提出のやりとりその他に 10 時間以上が目安 (ディベート) 【10 時間/レポート 1 本】</p>		
スケジュール	<p>前期：教材 1 のレポート課題 (1) は 7 月末、課題 (2) は 8 月末を目安に提出する。いずれの課題も学事暦で定められた日までに提出しなければならないが、初稿等はそれより早めに提出すること。 後期：教材 2 のレポート課題 (1) は 11 月中旬、課題 (2) は 12 月中旬を目安に提出する。いずれの課題も学事暦で定められた日までに提出しなければならないが、初稿等はそれより早めに提出すること。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	テキストを正しく理解し、課題ごおりのレポートとしての確に書かれていること
	観察記録	20%	再提出レポートへのコメントを正しく理解し、それに沿った修正となっていること
履修者への要望	<p>哲学や宗教の書物はその思想的な理解だけではなく実践的においても、自らの思索を深め、広い視野や客観性を高めるうえでも有効なので、テキスト内容を一字一句、しっかりと吟味しながら読解し、実践することが望ましい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名： 波多野精一 教材名： 『宗教哲学序論・宗教哲学』（岩波文庫、2012年） ISBN:978-4-00-331453-1 1260円＋税</p> <p>日本における宗教哲学の泰斗、波多野精一については、これまでその業績、獨創性、卓越性にもかかわらず、同時代の思想家に比べ、その評価が充分とは言えなかった。その理由の一つは彼の哲学的立場がキリスト教という枠組みの中でのものとみなされてきたからであろう。しかし彼の思想体系は、普遍的な宗教的世界とその背景をなす哲学的人間学からなり、既成宗教を超えて人間存在と超越者の本質に迫るものをその中心としている。</p>
参考図書	<p>今道友信『西洋哲学史』（講談社学術文庫、1987年）ISBN:978-4061587878、1220円＋税 ジョン・ヒック『神は多くの名前をもつ』（岩波書店、1986年）ISBN:4-00-000314-3 1900円＋税 ジャン・グロンダン『宗教哲学』（白水社・文庫クセジュ 2015）ISBN:10-4560509999 1200円＋税 宮本武之助『波多野精一』（日本基督教団出版局、1965年）850円（古書）</p>
履修上のポイント	<p>波多野精一の宗教思想を深く理解するために、テキストを熟読し、同時に上記の参考書や同時代の日本の哲学書を読むことが望ましい。なお哲学や宗教の書物は用語の特殊性もありわかりにくいものも多いが、その都度こまめに哲学史や思想系の辞書を引いて確認することが望ましい。</p>
レポート課題 1	<p>『宗教哲学序論』第3章「正しき宗教哲学」を読み、波多野宗教哲学の方法論である「宗教的体験の反省的自己理解、その理論的回顧」とはどのようなことかを述べなさい。 留意点： 宗教の世界を解明する方法論は種々あるが、波多野はシュライエルマッハーからティリッヒへと続く宗教体験を重視する立場にたっている。</p>
レポート課題 2	<p>『宗教哲学序論』第4章「歴史的瞥見」に紹介されている4人の宗教哲学者から一人を選び、そこに示されている宗教の本質を述べなさい。 留意点： 思想史的背景を考えつつまとめることで、哲学と宗教の関係・内容がより理解できる。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名： 石浜弘道 教材名： 『理性と霊性』（テクネ、2019、アマゾンでのみ購入可） ISBN:978-4-909601-37-7、2430円＋税</p> <p>宗教に基づく独善主義や狂信、迷信による事件が起こる昨今において、宗教の多様性、寛容性、普遍性を説くスピリチュアリティ（霊性）の宗教が注目されている。そこで本書は諸宗教における霊性の存在とその働き、および私たちの日常の能力である理性と非日常的な能力である霊性との相互関係から霊性的宗教の普遍性を考察する。</p>
参考図書	<p>石浜弘道『霊性の宗教』（北樹出版、2010年）ISBN:978-4-77-930249-7 2500円＋税 鎌田東二『神道のスピリチュアリティ』（作品社、2003年）ISBN:978-4-87-893593-0 1900円＋税 阿部美哉『現代宗教の反近代性』（玉川大学出版部、1996年）ISBN:4-472-09881-4C3014 3456円</p>
履修上のポイント	<p>テキストを熟読すると同時に、宗教に内在するスピリチュアリティ（霊性）を中心に考える場合、宗教体験が重要なものとなるゆえ、上記の参考図書や各自宗教的世界に触れることが望ましい。たとえば、各種の宗教行事への参加や宗教芸術の鑑賞等。</p>
レポート課題 1	<p>スピリチュアリティ（霊性）とは何か、またそれはどのような領域に働き、どのような意味、能力があり、どのような影響を私たちに与えるかを、宗教の普遍性を考慮しつつ述べなさい。その際可能であれば自分の宗教体験を合わせて述べることを望ましい。 留意点： テキスト2章1節を中心によく読むこと</p>
レポート課題 2	<p>①諸宗教に見られる霊性の存在とその働きを、既存の宗教であるキリスト教、仏教、神道、イスラム教から1つ選び述べなさい。または②理性と霊性のそれぞれに働きと相互関係を通して霊性的な宗教のあるべき姿を述べなさい。（①②どちらか一方のみ選択） 留意点： ①についてはテキスト2章2節、②については同7章を中心によく読むこと</p>

基本教材 1

第 1 回	教材の学修と、本科目の課題の理解
第 2 回	課題として取り上げる題材の検討
第 3 回	基本教材 1 の学修；課題として取り上げた題材について（宗教哲学方法論の考察）
第 4 回	基本教材 1 の学修；課題として取り上げた題材について（宗教体験に関する歴史的考察）
第 5 回	基本教材 1 の学修；課題として取り上げた題材について（宗教哲学の代表的哲学者の考察）
第 6 回	基本教材 1 の学修；課題として取り上げた題材について（宗教の本質に関する考察）
第 7 回	関連する文献の検索とその内容の学修
第 8 回	宗教の歴史的推移とそのあるべき姿に関する学修
第 9 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 10 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

基本教材 2

第 1 回	教材の学修と、本科目の課題の理解
第 2 回	課題として取り上げる題材の検討
第 3 回	基本教材 2 の学修；理性の働きとその限界を学修
第 4 回	基本教材 2 の学修；霊性とは何か、なぜ必要なのかについての学修
第 5 回	基本教材 2 の学修；諸宗教における霊性の存在とその働きを考察
第 6 回	基本教材 2 の学修；理性と霊性の相互関係を通しての霊性的宗教とは何かを考察
第 7 回	関連する文献の検索とその内容の学修
第 8 回	関連する個人的・社会的な事例とその内容の霊性的考察
第 9 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 10 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証